



●がんサロン利用者の声●

がんサロンを開設して約一年半がたちました。開設時より延べ3573名、H23年度では2293名と多くの方が利用しております。今回はサロンを利用くださった方の実際の声をお届けしたいと思います。原稿を依頼したところ、快く引き受けてくださいました。全文を掲載いたします。

「がんサロンのテーブルで」

私は通院歴17年。抗がん剤を服用し続け、ほどほどの元気があります。副作用はありますが、効き目の方を喜んでます。17年前の最新薬も、今は古い薬になり、自分の病気は数多くに分類されていること等を「がんサロン」の本で知りました。通院も長いので、主治医には悪い症状の他に良いことも探して伝えていきます。笑いは免疫力を高めると新聞で知ってから、暮らしの中でも「笑い」を創っています。

がんサロンは、予約不要・料金無料・笑顔と最新情報があり、言いたいことだけ言えるところです。だから通院も楽しみになりました。期待は少しずつふくらんでいます。

(深浦町、Sさん、女性)

「振り返って考えてみた事」

主人を見送ってから、そろそろ半年になろうとしています。2009年10月に前立腺がんが副鼻腔に転移し、耳鼻科病棟に再々入院しました。当時痛みや鼻血、複視などいろいろな症状も出始めていました。痛みについては緩和ケアを受け始めていたので、あまり心配しませんでした。家族としてこれからどうすればよいのかいつも追いつめられた感じでした。

思い余って地域連携室にセカンドオピニオンについて相談に行き、がん診療相談支援室を紹介してもらいました。当時そういう制度があり、また弘大はこの地域の拠点病院であるということは知っていましたが、どのようにその制度を利用するのか、また他病院のセカンドオピニオンを受けることで何か不都合があるのではとがん相談員に聞きましたら、「そんなことありませんよ。」と必要な手続きを教え、また励ましてくださいました。暗夜に光明をみた思いでした。幸い娘が2人看護師と保健師として関東で働いていたので、A病院に申込み、セカンドオピニオンを受けることができました。

その結果、やはりこの道しかないということがわかり、迷いが吹っ切れたと思います。その後2010年8月にがんサロンが開設した事を新聞で知り、喜んだことを思い出します。

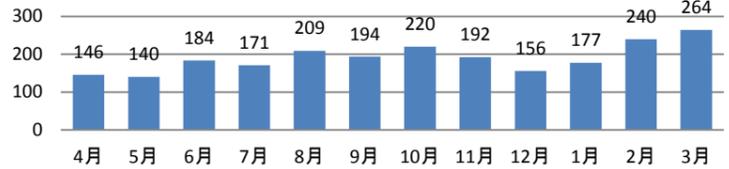
入院や通院の度に相談室を訪れ、そこで資料を拝借したりアドバイスを受けて、また雑談の中に慰めを見出していました。

本人は体力も落ちつつあり、自分の問題を話し合うのは好まなかったのですが、私1人で行くことが多かったのですが、話を聞いてくれる場所があるということが気持ちの支えになりました。

どうかこれからも闘病されている方々の支えとなり、慰めになる場所であって戴きたいと願っております。

(弘前市、Mさん、女性)

H23年度 がんサロン利用者数



「この生地で帽子作りたので教えてくださいませんか」

ピンクの生地を持ってきた女子高生は「がん相談室」で2月に開催された帽子作り講習会にやってきた。

事情を聞くと、抗がん剤治療を始めた父の為に手作りの帽子にチョコレートを組み合わせてバレンタインにプレゼントするのだと言う。その話を聞きながら胸が詰まった。

がん体験者である私達ほほえみネットワークの有志が現在治療中のがん患者さんの為に何かできないかと考えて行動を起こしたのが、昨年10月から始めた「がんサロン」での帽子作り相談会である。

毎回、帽子作りに参加した方々にはいくつもの物語がある。一人ひとりにある物語、家族や友人そして自分自身のために帽子作りをする。がんの治療には様々な心の痛みがあり、本人にとっても家族や友人にとっても、大きな負担がある。体験者である私たちは、一緒に帽子を作る事で時間をかけながら小さな話をしていく。患者さんとの会話の内容は重要ではない、一緒に寄り添う事が大事だと思う。笑いながら、励ましながら、時には一緒に涙ぐみながら作業をしていく。私たちは、作業しながら「頑張ってね!」と声をかける事しかできない。しかし、帽子作りが終わった後に顔を上げて「ありがとうございました。」の一言、この瞬間が私達の無上の喜びである。少しでも前進!

(乳がん患者会副会長 今さん、男性)

「心のオアシス」

初めてがん診療相談支援室にお世話になったのは3年前の桜の頃でした。検査結果待ちで、告知前の不安で精神的にも一番つらかった時でした。

泣きながらの私の話を相談員の方は本当に優しく聞いてくれ、大分気持ちが安らいで帰ったのを覚えています。

がんサロンに行くこと、まるで実家にいる様なとても安心した気持ちになります。相談員の方の笑顔にもいつもいやされ、元気をもらっています。

病気が病気になるのでつらい時も多いですが、アドバイスを頂いたり、話を聞いてもらったりと本当に精神的に助けてもらっています。私にとってなくてはならない存在だと感じています。このような素晴らしい場所を作って頂きありがとうございます。

最後に、がんサロンは心と心のつながりだと思っているので、これかもずっと同じ相談員の方に寄り添って欲しいと思います。

(弘前市、Sさん、女性)

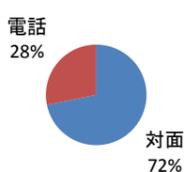
●平成23年度 がん相談の状況●

平成23年度のがん相談件数は700件でした。

がん相談 月別件数



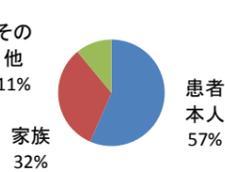
相談形式



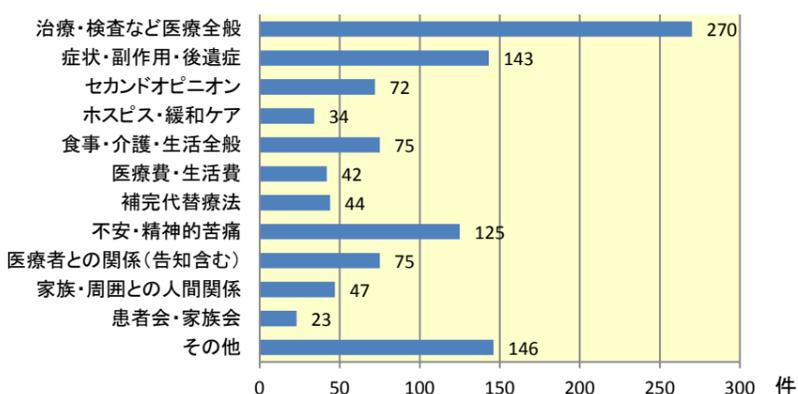
受診歴



相談者カテゴリー



がん相談内容(複数回答)



●ミニ勉強会の開催●

がんサロンではほぼ毎週、当院スタッフによるミニ勉強会を開催しております。抗がん剤に関すること、緩和ケアに関すること、医療費、食事について等、様々なテーマで行っています。また、予防の観点から、浮腫ケアについて医療リハビリナースセラピストによるミニ勉強会も月1回開催しております。昨年7月から28回開催し123名の方が参加され、活発な質疑応答がされています。

【講師のご紹介】

- ・緩和ケアチーム医師
- ・がん薬物療法専門医
- ・がん専門薬剤師
- ・緩和ケア認定看護師
- ・化学療法認定看護師
- ・管理栄養士
- ・医療ソーシャルワーカー(MSW)
- ・医療リハビリナースセラピスト



また、乳がん患者会(ほほえみネットワーク)の方が講師となり、タオルやバンダナで帽子の作り方を教えてくださいました。

おしゃべりしながら、和気あいあいと帽子を作っています。毎月第2火曜日の午後2時より開催していますので、お気軽にご参加ください。

また、毛髪技能士による頭皮ケア・ウィッグの相談会も毎月第3月曜日の午後1時～3時まで開催しております。



手作りのタオル帽子は「岩手ホスピスの会」や「ほほえみネットワーク」の患者会の協力を得て、年間約300枚を無料で提供しております。

発行日: 2012年3月30日

発行元: 腫瘍センター がん診療相談支援室 (内線5174)